

午後 1 時30分 開 会

○議長（菅原麻央議員） ただいまから令和 6 年度いただきへの、はじまり 富士市高校生議会を開会いたします。

私は、本日、前半の議長を務めます富士市立高校の菅原です。よろしくお願いします。

本日の会議は、お手元に配付いたしてあります議事日程により進めます。

日程第 1 吉原高校からの質問

○議長（菅原麻央議員） 日程第 1 吉原高校からの質問を行います。

吉原高校の発言を許します。吉原高校。

〔吉原高校 登壇〕

○吉原高校（鈴木麻央議員） 私たちは、学校の探究活動「吉高ゼミ」で、富士市の魅力、中でもその魅力をどのように発信し、観光につなげるかということについて考えています。

富士市にはたくさんの魅力があるのに、内外にうまく伝わっていないように感じます。もしかしたら、PR 活動がうまくいってないのではないかと考えました。例えば最近、富士山夢の大橋に外国人観光客が多く訪れるきっかけとなったのは、SNS が大きな役割を果たし、また、観光客も増えることによって、交通の利便性を向上させることも大切です。ただ写真を撮って帰ってしまうのではなく、観光につなげるために周辺をPR することが必要です。そこで富士市の観光について、以下の 3 点質問をします。

○吉原高校（三瓶香穂議員） （1）富士市では現在積極的に公式Instagram を活用しています。しかし高校生の目線で見ると、風景が多いため「いいね」が多いけれど利用しにくいようです。私たち若い世代は、例えばおいしい食べ物屋さんや映える場所が知りたいと思います。富士市Instagram の運営はどういったものか、またどの年齢層に向けてでしょうか。

○吉原高校（鈴木菜摘議員） （2）観光に交通アクセスは欠かせないものです。新富士駅と富士駅は30分に 1 本バスが通っていますが、もっとPR を行うべきではないでしょうか。例えば、バス利用に誘導するためには何かつくるなどはいかがでしょうか。

○吉原高校（角真樹議員） （3）現在富士市では多種多様なお祭りが開催されていますが、その多くが富士市民向け、つまり内向きであり対外的ではないような気がします。観光資源としての祭りの力は非常に大きいと思うのですが、どのようにお考えですか。

以上です。

○議長（菅原麻央議員） 市長。

[市長 小長井義正君 登壇]

○市長（小長井義正君） 吉原高校の御質問にお答えいたします。

初めに、富士市の観光についてのうち、富士市Instagramの運営はどういったものか、またどの年齢層に向けたものかについてであります。市公式Instagramふじぐらむは、市民参加型のSNSとして平成31年4月に開設したものであり、このほか市公式のLINE、フェイスブック、エックス及びユーチューブチャンネルにより本市の魅力を発信してまいりました。

ふじぐらむの運営は、公共性に配慮しながら、本市のことを大好きな市内外の皆さんが、ハッシュタグ富士市やハッシュタグふじぐらむをつけてくれた投稿に対し、シティプロモーション大使さもにゃんがコメントをつけてリポストする方法で広く情報を伝えています。現在、フォロワー数は6000人を超え、フォロワーの男女比は、ほぼ同数となっております。年齢層としては35歳から54歳までが多くを占めております。当初は若者を主たるターゲットと設定しておりましたが、現状では中高生が最も少ない状況となっております。

次に、新富士駅と富士駅は30分に1本バスが通っていることについて、もっとPRを行うべきではないか。例えば、バス利用に誘導するためには何かつくるなどはいかがかについてであります。公共交通の利用促進を図る上で、市民・来訪者等へのPRは重要であり、令和3年3月に策定した富士市地域公共交通計画では、分かりやすい案内情報・サイン表示などの取組や、広報紙やウェブサイトによる市民啓発・利用促進、バスロケーションシステム情報の利便性向上等に取り組むこととしております。

計画に基づき、富士市バスなびの配布や駅への案内看板・音声案内装置の設置、市と交通事業者のウェブサイトへの時刻表掲載、バスロケーションシステムによる運行情報の提供などを行ってまいりました。

今後も、これまでの取組に加え、両駅間の運行に特化したバス時刻表の作成やSNSを活用した情報発信、モビリティ・マネジメントによるバス利用の促進など、交通事業者と連携して市民や観光客へのさらなるPRに取り組んでまいります。

次に、富士市には多種多様なお祭りが開催されていますが、多くが市民向けであり対外的ではないような気がします。観光資源としての祭りの力は非常に大きいと思うのです。

が、どのように考えているかについてであります。市内では、日本三大だるま市の一つとされる毘沙門天大祭や、吉原商店街を中心とした東海一の祇園と呼ばれている吉原祇園祭が開催されており、市内外から多くの方が訪れていることから、本市の重要な観光資源と捉えております。

地域で行われている祭りにつきましては、お寺や神社、地域住民、関係団体の皆様が企画・運営し、そのほとんどが地域特有の文化や歴史、伝統に基づいた祭りとして開催されており、地域の皆様が参加し楽しむ祭りであると認識しております。

一方、本市が運営委員会の事務局を務めている富士まつりは、市民総おどりと花火大会など多彩な催しが行われ、市民だけでなく市外から訪れる方も楽しめる、本市を代表する夏の一大イベントであります。このため昨年度からは、ゆったりと花火を観覧できる有料の敷席を全国のコンビニエンスストアで手軽に購入できるようにいたしました。

また、花火大会を現場で観覧できない人にも、花火の臨場感を味わってもらうようユーチューブチャンネルでのライブ配信を実施しているほか、富士山観光交流ビューローでは、富士まつりと花火大会をセットにした観光ツアーを企画し、主に首都圏に向けて販売しております。

富士まつりは、市民の皆様を中心に約6万人が来場しており、周辺の交通対策のほか、駐車場・駐輪場の確保、中央公園や周辺の歩道に大勢の人が集まることによる事故の防止など、開催に伴う課題もあります。

このような状況を踏まえますと、富士まつりを観光資源の一つとして捉え、対外的にPRを展開する一方で、来場者の安全・安心を確保した運営も重要となってまいりますので、これらのバランスを考慮しつつ観光誘客に努めてまいります。

○議長（菅原麻央議員） 吉原高校。

○吉原高校（三瓶香穂議員） 御回答ありがとうございます。フォロワーの年齢層が高いことや、Instagramの運営の仕方が分かりました。しかし、たくさんの投稿がされている中で、景色が圧倒的に多く、似たアカウントの食べ物や特集がされている民間のアカウントのほうが見たいと思ってしまう。今後、公共性に配慮しながら、若者をターゲットとした投稿をするという考えはありますか。また、このようなことを踏まえて富士山夢の大橋のInstagramのアカウントも、どのような形で運営されていく予定ですか。

○議長（菅原麻央議員） 総務部長。

○総務部長（江村輝彦君） 今、2つ御質問をいただきました。まず、1つ目の市公式イ

ンスタのふじぐらむについてのお話を私からさせていただきます。多くの皆さんに、この富士市の魅力を、ハッシュタグ富士市、ハッシュタグふじぐらむというのをつけてどんどん発信していただきたいと思っています。そういった中で今、御提案がありましたけれども、市内のおいしい食べ物について、ぜひ多くの皆さんに、特に高校生の皆さんに、ふじぐらむに投稿していただければと思います。ただ、私どもは、その皆さんからの多くの投稿に対して、シティプロモーション課のほうで、シティプロモーション大使のさもにゃんがですね、コメントをつけてリポストという形を取っております。さもにゃんが、個人のお店の商品をリポストするということになりますと、先ほど申し上げたように公共性ですか、公平性、こういった課題が出てきます。

やっぱり、さもにゃんは、誰に対してもえこひいきせずに、いつも公平なものですから、富士市のことを好きな人全てを愛していますので、こういった工夫をすれば、このさもにゃんが、先ほど言った公平性だとか、そういった課題をクリアして発信できるのか。そしてもっと多くの高校生の皆さん、若い人たちに、富士市の魅力をたくさん発信できるのか。また考えていきたいと思います。御提言ありがとうございました。

○議長（菅原麻央議員） 産業交流部長。

○産業交流部長（簗木真一君） 2点目の富士山夢の大橋インスタグラムの今後の活用についてということであります。御案内いただきましたように、富士山夢の大橋はSNSで世界中に知れわたって、多くの外国人観光客が訪れています。富士山夢の大橋の公式インスタグラムは、本年6月から運用を始めまして、内容としましては、新富士駅とか富士駅からの行き方ですね、こちらを動画で紹介をしたり、駐車場やトイレが現地にあるということ、あと、キッチンカーが出店しているといったような情報を発信しております。それから中央公園、田子の浦港といった周辺の観光スポット、食べ物屋さんの紹介など、富士市を楽しみながら、観光振興につながるような、そのような情報について発信をしておりますが、今後もPRの仕方を工夫改善しながら、随時更新をしてさらなる活用を図っていきたいと考えています。さらに富士山ビューポイントや、いろんなイベントなどの最新情報をストーリーズやライブ配信で共有するといったような、そのような活用の仕方についても今後さらにバージョンアップしていきたいと考えています。

○議長（菅原麻央議員） 吉原高校。

○吉原高校（三瓶香穂議員） インスタグラムの運営の仕方や、富士山夢の大橋の今後の運営の形が分かりました。インスタグラムを発展させる上では、若者の心をつかみに行く

ということは大事だと思うので、今後の発展に期待しております。

○議長（菅原麻央議員） 吉原高校。

○吉原高校（鈴木菜摘議員） 次に、交通アクセスについてです。回答していただいたとおり、PRを行っていることは分かりましたが、実際、駅に着いたときに、バス停の位置がすぐ分かるような仕組みがあると便利だと思います。新富士駅、富士駅に来るバスは、多くの人が様々な時間帯に利用しているので、例えば足元にシールを貼るなど、バス乗り場への案内をするというのはいかがでしょうか。

○議長（菅原麻央議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君） バス乗り場へ案内する足元のシール、そういったものも貼ったらどうかという御質問ですけれども、バス乗り場への案内ですけれども、現在は足元のシールではないんですけれども、新富士駅において、バス乗り場へ案内するサイン、こちらを職員が手作りで4か国語ぐらいですね、そういったもので、案内表示をしております。

今後、そういう案内、見てすぐに行けるような形にやっていかないと考えていますので、これから新富士駅だけではなくて主要な駅で、富士駅もこれから再開発をしていきますけれども、その際には分かりやすいサイン、足元のシールあるいは案内板、そういったものを設置してまいりたいと考えています。

○議長（菅原麻央議員） 吉原高校。

○吉原高校（鈴木菜摘議員） 分かりました、今後、富士駅、新富士駅のさらなる交通アクセスの利便性に期待しています。

○議長（菅原麻央議員） 吉原高校。

○吉原高校（角真樹議員） ユーチューブチャンネルでのライブ配信ですが、前回の富士まつりの際の閲覧数はどれほどだったのでしょうか。

また、その配信のことを私は知らなかったのですが、どのように市民に周知させているのでしょうか。

○議長（菅原麻央議員） 産業交流部長。

○産業交流部長（簗木真一君） 富士まつりのユーチューブライブ配信の視聴者数と周知の仕方ということですが、まず花火大会のこのユーチューブライブ配信の視聴者数、実績ですけれども、本年度の富士まつりでの総視聴者数は1万3000人余という状況でございました。それから、ユーチューブライブ配信の周知の仕方ということです。これにつ

いては富士市のウェブサイトへの掲載ですね。

あと、ポスターも実は1000枚作成をいたしまして、公共施設にて掲示をしたり、スーパーですとか、町内会といったところにお配りをして、周知のお願いをいたしました。それから、富士まつりにつきましては毎年チラシを10万部作成いたしまして、市内全世帯に配布しておりますが、そのチラシにライブ配信の内容を掲載いたしまして、併せてQRコードですとか、検索の仕方ということもチラシに載せて、周知PRを図りました。

○議長（菅原麻央議員） 吉原高校。

○吉原高校（角真樹議員） 御回答ありがとうございます。これにて吉原高校の質問を終わります。

○議長（菅原麻央議員） 以上で吉原高校からの質問を終わります。

日程第2 吉原工業高校からの質問

○議長（菅原麻央議員） 日程第2 吉原工業高校からの質問を行います。

吉原工業高校からの発言を許します。吉原工業高校。

[吉原工業高校 登壇]

○吉原工業高校（末永サマンタ香織議員） 議長のお許しをいただきましたので、発言通告書に従い質問を行います。私の弟は外で遊ぶことが大好きです。今年の夏、彼がいつもどおり近所の公園に遊びに行くと看板が立っており、「この公園ではボールはつかえません」と制限がかかっていました。突然、公園で遊ぶことができなくなってしまったのです。

この話を聞いて、我々は、富士市に数多く存在する公園の現状や意義を改めて考えるようになりました。そこで以下、富士市の公園についての疑問と課題についてお聞きしたいと思います。

（1）規模の小さな公園でも、近所の子供たちの数少ない遊び場です。市は、公園の管理運営について地域の方々の御意見を伺っていると聞いていますが、そこに子供や若者の意見が反映されているとお考えですか。

○吉原工業高校（濱本響議員） （2）市内の各公園に必要な遊具や設備の需要を、幅広い年齢層の市民から聞き取ることが必要であると我々は考えます。現在の市には、子供や若者から意見を聞いたり、反映したりする仕組みはありますか。

○吉原工業高校（松井皓大議員） （3）市内の各公園が持つ機能や必要性について、どん

な公園にしたいのか、使用する子供の意見や中学生、高校生の意見を取り入れるお考えはありますか。また、中学生や高校生が楽しめる公園を整備するお考えはありますか。

以上、項目３点について、１回目の質問を終わります。

○議長（菅原麻央議員） 市長。

[市長 小長井義正君 登壇]

○市長（小長井義正君） 吉原工業高校の御質問にお答えいたします。

初めに、富士市の公園の課題についてのうち、規模の小さな公園の管理運営について地域の方々の御意見を伺っていると聞いているが、そこに子供や若者の意見が反映されているかについてであります。本市には、富士山かぐや姫ミュージアムがある広見公園をはじめ、イベントでのにぎわいがある中央公園や、スポーツ交流の場である富士総合運動公園のほか、身近な地域交流の場として街区公園を整備し、様々な活用がされております。

このように、本市には様々な規模の公園がありますが、地域の皆様が利用しやすい公園となるよう、新しく公園を造るときには、ワークショップ形式の会議を開催し、管理運営について意見を伺う機会を設けております。

会議の参加者の選出は、これまで地元町内会にお願いしており、子ども会やＰＴＡなどの団体の代表のほか、地域にお住まいで公園づくりに興味のある方を推薦していただいております。今後は、中学生、高校生をはじめ、幅広い世代から意見を伺うことができるよう、地元町内会等をお願いしてまいります。また、公園の供用開始後は、町内会を中心に公園愛護会を結成していただき、地域のイベントや清掃など、地域活動に即した管理運営をお願いしております。

なお、公園利用者から寄せられる要望や相談につきましては、市から公園愛護会にお伝えし、公園の利用方針を決めていただいておりますので、御理解をお願いいたします。

次に、各公園に必要な遊具や設備の需要を、子供や若者から意見を聞いたり、反映したりする仕組みはあるかについてであります。本市では、市民の皆様が常に安全かつ快適に公園を利用していただくことができるよう、公園施設長寿命化計画に基づき、計画的に公園遊具のリニューアルを進めております。

遊具のリニューアル時には、関係する公園愛護会の皆様に意見を伺うほか、複合遊具をリニューアルする際には、遊具の対象年齢に合わせて、隣接する小学校や幼稚園、保育園などにアンケートを実施し複合遊具を決定しており、子供の意見を反映した施設となるよう努めております。

また、公園の巡視や安全点検により劣化や故障が確認された遊具につきましては、早期に修理を実施しております。

次に、各公園が持つ機能や必要性について、利用する子供や中学生、高校生の意見を取り入れ、中学生、高校生が楽しめる公園を整備する考えはあるかについてであります。公園に期待される機能や必要性は、環境保全や防災など様々であり、また、楽しむという側面でのレクリエーション機能においても、利用する世代により求める施設や活動内容が異なります。このように、利用する全ての方が楽しめる機能を取り込むことについては、公園の周辺環境や規模などによる制約がありますが、今後、公園の整備計画を策定する際には、中学生や高校生の意見も取り入れ、より多くのニーズに寄り添えるよう取り組んでまいります。

なお、現在、富士総合運動公園や富士川緑地などでスポーツ施設の整備を進めているほか、富士川体育館の北側駐車場には、若者の間で競技人口が急増しているスケートボードの練習場が設置されておりますので、公園と併せて利用していただきたいと考えております。

○議長（菅原麻央議員） 吉原工業高校。

○吉原工業高校（末永サマンタ香織議員） 市長から御答弁をいただきましたので、2回目の質問をします。（1）の質問については、私たちの学校の友人にそのようなワークショップ形式の会議があることを聞いていましたが、みんなそのような意見を伝える場については知らなかったです。聞いたこともない様子でした。そして、地元町内会にお願いしても、地元町内会は、果たして中高生と接点があり、連絡する手段を得ているのか疑問に感じます。

○議長（菅原麻央議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君） ワークショップのメンバーですけれども、おっしゃっており、今、地元町内会のほうにお願いしておりまして、参加者は地域の方々に決めていただいているような状況でございます。ただですね、やはり今後、幅広い皆様方の御意見を聞いて、みんなが使える公園、みんなが仲良く——狭いと、なかなか皆さんが使えるような公園にしづらいのですが、どうしたらそういう公園にできるのか話をする場を設けていきたいものですから、これからはワークショップを開催するようときには、ぜひ高校生ですとか中学生の御意見が入るように、あるいはそのワークショップのメンバーにも参加していただけるように、お声掛けをしてまいりたいと思いますので、ぜひ参加していただ

ければと思います。

○議長（菅原麻央議員）　こども未来課長。

○こども未来課長（本多直人君）　富士市では令和４年の４月１日に、富士市子どもの権利条例というものを制定いたしました。この中では、いろいろな子供の権利を守るための、行政のお約束ということが散りばめられているのですが、そのうちの一つとして、子供の意見を尊重というものを設けています。今日も皆様方からの本当に貴重な御意見をいただいているわけなんですけれども、その一つ一つ、非常に大切だというふうに思っています。

条例で子供の権利、子供の意見の尊重ということを記載しておりますので、我々としても、皆様方の御意見については、本当に大切に扱って、年齢・発達の段階に応じて全ての子供の意見は大切にしていまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（菅原麻央議員）　吉原工業高校。

○吉原工業高校（末永サマンタ香織議員）　（１）の質問について、今後高校生や中学生の意見を取り入れていくということについて、了解いたしました。

○議長（菅原麻央議員）　吉原工業高校。

○吉原工業高校（濱本響議員）　（２）の質問については、アンケートについて、私たちから提案があります。今、学生たちは小中高と、学校で１人１台タブレット端末を持っています。それを生かし、市内の学生にタブレットを利用したウェブ形式でのアンケートを取り、幅広い層から意見を聞く仕組みを整えることを提案します。そうすることで、学生の声を広く聞くことができ、学生が公園に求める需要を知るきっかけになると考えます。

○議長（菅原麻央議員）　都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君）　先ほども御答弁させていただきましたけれども、より幅広く意見を聞いて、本当にみんなが使いやすい公園にしていきたい、それは私どもも考えております。ただこれから、そのアンケートの取り方は、幅広く意見を聞くために——ワークショップですと限られた人になってしまいますので、例えばウェブ形式でアンケートを取るといった形も有効なのかなと考えておりますので、これから柔軟な公園の利用に関するルールづくり、そういったものを進めるですとか、今、今年と来年にかけて、緑の基本的な方針について定めています緑の基本計画、こういったものを今つくっていますので、それに関してもやっぱり皆さんの意見を伺う機会、特にウェブ形式なんかで、聞く

機会を前向きに検討していきたいと、そのように考えています。

ただですね、これはちょっと質問とは少し違うんですけども、先ほど市長の答弁にありましており、これからは公園の清掃などには、やはり公園愛護会ですとか地域の皆様のお力を借りて、地域の公園の草刈だとかみんなで維持管理をして、みんなが使いやすい公園にしているような状況でございますので、ぜひ今度そういう会にも皆様の若い力、御意見をいただきながら、協力していただけることを切に願っておりますので、またよろしく願いいたします。

○議長（菅原麻央議員） 吉原工業高校。

○吉原工業高校（濱本響議員） （２）の質問については、ぜひ検討のほう、よろしく願いいたします。

○議長（菅原麻央議員） 吉原工業高校。

○吉原工業高校（松井皓大議員） （３）の質問について、富士市は最近、富士川体育館の北側にスケートボードの練習場を整備してくださり、多くの若者から大変喜ばれております。ありがとうございます。そのような形で、先ほど申し上げた、学生から意見を聞くシステムを構築していただき、今後広く反映させていただきたいと思います。

○議長（菅原麻央議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君） やはり、そういう意見を伺いながら、どういったものができるか、やはり高校生とか中学生が遊ぶ、楽しめる施設は、例えばバスケットボールですとかボール投げですとか、ボールも柔らかいボールじゃなくて、もう少し硬いボール、軟式のボールですとか、そういったものになりますので、まずは地域の皆様とお話して、どのスペースだったらすみ分けができるか、中には小さいお子さんもいらっしゃいますので、そういう話をしながら、これから遊具の更新なんかがあるときには、そういった場所があるときには、そのようにやっていきたいと思います。また新たに比奈公園、分かりましかね、吉原工業高校のすぐ下のほう、吉原三中のすぐ横のあたりに造っている公園なんですけれども、そういう新しい公園を造る際には、ぜひ皆さんの意見を取り入れられるように、なるべくそういうことができるように考えていきたいと思っています。

○議長（菅原麻央議員） 吉原工業高校。

○吉原工業高校（松井皓大議員） （３）の質問については、前向きに検討していただけること、了解いたしました。

最後になりますが、本日はこのような場を設けていただき、富士市長様をはじめ、富

士市役所関係各部の皆様、大変感謝しております。今回は高校生議員として、市議会議員の立場で物事を考え情報収集し、議員３人で協議し公の場で質問するという貴重な体験をさせていただきました。また、その過程では、富士市議会議員の杉山諭様、市川真未様をはじめ、市役所の多くの方々にお世話になりました。本日はありがとうございました。

以上で、静岡県立吉原工業高等学校高校生議員の質問を終了します。

○議長（菅原麻央議員） 以上で吉原工業高校からの質問を終わります。

日程第３ 富士見高校からの質問

○議長（菅原麻央議員） 日程第３ 富士見高校からの質問を行います。

富士見高校からの発言を許します。富士見高校。

〔富士見高校 登壇〕

○富士見高校（井上浩一議員） 私たちが通う富士見高校は、富士駅の近くに位置しており、生徒は通学路として富士駅を、また富士本町商店街を利用しています。しかし、商店街はいつも人通りが少なく、閑散としているように感じます。

また、私たちが多く利用する時間帯は午後４時以降の夕方に集中しますが、近隣にはその時間帯に生徒が気軽に立ち寄れる場所が少ないと感じています。富士市交流プラザなどの公共施設は近くにありますが、我々生徒が長時間気軽に利用できる場所ではありません。

私たち議員のうち半数は、コミュニティ研究会という部活に所属しています。この部活動ではエキキタテラスなど富士駅北口地区のにぎわい創出を目的としたイベントに長く参加してきました。その活動の中で、駅周辺地区の再開発の件について知りました。その計画を実際に目にしてみると駅周辺に商業施設を造ったり公園を造ったりして多くの人にとっての憩いの場にしようとしていることが分かりました。

私たち生徒の立場からも、今回の再開発を機に富士駅周辺がもっとにぎわい、活気あふれるまちに変わることを願っています。それと同時に、私たち生徒を含めた多くの人たちが気軽に集えるまちになることを強く願っています。そこで以下の質問をします。

○富士見高校（北村心愛議員） １つ目の質問をします。生徒が放課後に気軽に立ち寄れる場所の創出を私たちは期待しています。駅の隣接地にはブックアンドカフェなどの様々な世代が交流できる施設を設置する予定とのことですが、利用者の年齢層をどのように想定していますか。

○富士見高校（小池まい議員） 2つ目の質問をします。高校生が利用する場合、最も早い時間帯で16時頃、遅い時間帯では19時頃になります。施設があまり早く閉まってしまうと利用できずに駅を素通りするだけになってしまいます。こういった施設が開いていることで富士宮市やその他の遠方の地域から来る生徒が駅に長く滞在し駅周辺のにぎわいにもつながると考えます。駅前の公益施設はどのくらいの開館時間を想定していますか。

○富士見高校（加藤大喜議員） 3つ目の質問をします。私たちは、富士本町商店街の商店主の方々と意見交換を行いました。再開発によって、商店街に人通りが増えることを望む声が多くある一方で、本当に活気が戻ってくるのか不安に感じている声も聞かれました。富士駅北口再開発に当たっては、富士本町商店街とどのように連携していく考えでしょうか。

質問は以上です。

○議長（菅原麻央議員） 市長。

〔市長 小長井義正君 登壇〕

○市長（小長井義正君） 富士見高校の御質問にお答えいたします。

初めに、富士駅北口再整備事業と商店街のにぎわいについてのうち、駅前公益施設利用者の年齢層をどのように想定しているかについてであります。富士駅北口再整備事業は、富士駅周辺の活性化・再生を図ることを目的に、老朽化した建物を建て替えるとともに、道路・駅前広場の整備を一体的に進め、富士山の景観を生かした機能的で魅力あふれる駅前空間の創出を図る事業であります。このうち、駅前広場を活用した駅前公益施設につきましては、交通の結節点としての機能、サービスの提供や交流促進の機能、人材育成の機能、まちのシンボルとしての機能を高めるため、ブックアンドカフェやものづくりSTEAMラボ、スタディアンドワークスペース等を整備する予定となっております。

本施設は、特定の年齢層にとらわれず、子ども・若者から高齢者まで、あらゆる世代の利用を想定しており、誰もがいつでも訪れることができ、くつろぎ、活動できるにぎわいの交流拠点となることを目指しております。

次に、駅前公益施設の開館時間はどのように想定しているかについてであります。施設へ導入する機能や、開館時間等を含めた運営方法につきましては、これまで、全国の類似施設の事例調査を行うとともに、駅利用者アンケートの実施や、地元組織・団体、富士見高校をはじめとする周辺の高校生との座談会の開催など、ニーズの把握に努めてまいりました。類似施設の事例調査では、午前9時から午後9時頃までを開館時間とする施設が

多く見られたほか、ニーズの把握から、公共交通の待ち時間を過ごすことができる場所や、高校生の集いの場が不足しているとの意見を多くいただいております。夕方以降も気軽に立ち寄り、安全かつ快適に過ごすことができる機能が必要であると認識しております。現在、公益施設の管理・運営や、提供するサービス水準について計画を策定中であり、その中で、開館時間についても類似施設を参考に、市民のニーズや駅の時間帯別利用者数等を踏まえ、運営コストとのバランスを考慮しながら、最適な開館時間となるよう検討してまいります。

次に、富士本町商店街とはどのように連携していく考えかについてであります。富士駅北口再整備事業により、駅前が大きく生まれ変わりますが、ハード整備の効果を周辺にも波及させ、まちなかの活気を取り戻すためには、商店街や地域と連携し、まちの情報発信やイベントの開催等、ソフト事業の取組も併せて進めていく必要があると考えております。このため、富士駅北口再整備事業の推進に当たっては、計画や構想の段階から、富士本町商店街振興組合の皆様にも市民懇話会や座談会に参加いただき、意見交換や情報共有を図ってまいりました。さらに、令和4年度には、商店街だけでなく、市民や事業者との協働により、まちなかのにぎわい創出に向け、官民連携で取り組む内容をまとめた富士駅北口まちなか空間活用推進計画を策定いたしました。

現在、本計画に基づき、居心地がよく歩きたくなるまちなかの形成に向け、まちなか空間を活用した社会実験エキキタテラスの開催や、軽トラ市への協力、ニュースレターによる情報発信等、商店街や地域と連携したにぎわいの創出に取り組んでおります。

また、駅前公益施設には、デジタルサイネージや、イベント・講座が開催できるスペースの設置を計画しており、整備後の施設においても、商店街の情報を発信し、魅力を伝えるイベントを開催するなど、商店街や地域と連携した取組を予定しております。

このように、再整備事業を機に、富士駅周辺がより一層にぎわい、活気あふれるまちとなるよう、商店街や地域と連携し、まちなかの活性化に向け全力で取り組んでまいります。

○議長（菅原麻央議員） 富士見高校。

○富士見高校（北村心愛議員） 御回答ありがとうございます。1つ目のブックエンドカフェについて質問です。世代間交流を促進するということですが、世代間交流を自分から行うのは難しいと感じています。実際に交流するためのイベントなどの仕掛けはどのようなものがあるのか教えていただきたいです。

○議長（菅原麻央議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君） 世代間交流ができるような取組や仕掛けはどのようなものがあるかという御質問でございますが、駅前公益施設では、人が集い交流を促す場所として、本市の人づくり、あるいはにぎわいづくり、こちらに寄与できる講座ですとかイベントを開催するような予定をしております。例えばミニコンサート、そういったもののなどの音楽イベントですとかマルシェなどの開催、商店街の飲食店の店主さんなどに参加していただいて、料理教室みたいなものをしていただくなど、子供、あるいは大人も一緒に楽しめる、あらゆる幅の世代の人を対象としたような、そうしたイベント、講座を開催していきたいと考えています。

またこちらの公益施設だけでなく、今度、駅前再開発、北側の再開発もありますが、そちらのイベント広場でもそういう催しができるようなスペースを造って、さらに、駅前の商店街、そちらのほうへ続く、今、富士見高校の皆さんが一緒になってやっていただいているエキキタテラス、ああいった幅広い世代の方が参加できるようなイベント、そういったものもこれから仕掛けていきたいというふうに考えています。

この公益施設、まだ皆さんちょっと、内容がどんな形になるか分からないと思いますが、富士市の公式ユーチューブ、こちらで公益施設の中に入っていくとこういうフロアがあつてという、そういう動画を配信していますので、ぜひそれを見ていただきまして、施設でどんなことができるかイメージしていただいて、私たちに御提案いただければ、できる限りのものをそこでやっていきたいと考えていますので、ぜひよろしく願いいたします。

○議長（菅原麻央議員） 富士見高校。

○富士見高校（北村心愛議員） 御回答ありがとうございます。様々な世代間交流のためにイベントがあるとおっしゃっていたので、期待しています。

○富士見高校（小池まい議員） 私を含め、遠方から富士見高校に通う生徒は、帰りの電車やお迎えを持つ時間が、ほかの生徒よりもとても長いので、その点からも施設の利用時間や開館時間というのは、私たちの中で最も重視すべき点の一つだと考えています。ですが、近いうちに駅北再開発が行われるのだとしても、現状は駅周辺に私たち学生が長時間利用できるような施設や場所がないことは事実です。なので、一つお願いしたいことがあるのですが、駅北再開発が落ち着くまでの間、駅周辺や通学路などに私たちが座れるようなベンチを設置、あるいは交流プラザの椅子の数を増やしていただきたいです。

私の場合ですが、私は遠方から電車通学をしているのですが、電車の本数が少なく、一度乗り遅れてしまうと、最悪2時間はどこかで時間を潰さなければいけません。学校にいてもできることは限られていますし、交流プラザなどで暇を潰そうと考えても、座れる場所が埋まってしまっていて、数時間外で立ったまま過ごすというパターンも少なくありませんでした。なので、座れる場所を増やしていただけるだけでも大変ありがたいです。検討していただけますか。

○議長（菅原麻央議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君） 市長答弁にもありましたとおり、皆さんここで電車待ちしている場所がなくて困っている。特にペDESTリアンデッキの外の寒いベンチに座っているのを私も見かけて、ちょっと切ない気持ちになるんですけども、できれば建物の中で待っていただける場所、これから公益施設があともう少しかかるものですから、そのときにはそういう温かくて屋根のある、食べ物もある、そんな待っていただける場所を造っていきたいんですけども、とりあえずそれまでの間ですね、今、エキキタテラスでテーブルやベンチ、こういったものを造ったりして社会実験をやっていますので、これから皆さんとお話をして、どういう場所にそういうベンチが置けるのかを話し合わせていただいて、考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○議長（菅原麻央議員） 富士見高校。

○富士見高校（加藤大喜議員） まず、事前にお配りしてある資料の説明をさせていただきます。先日、学校のほうで行ったアンケートと、商店街の店主さんたちのインタビューを添付しました。現在の学生の声や店主さんたちの思いを載せてあります。ぜひ後ほど御覧いただき、再開発事業の参考になれば幸いです。

続いて、第3の質問についてです。商業者の高齢化が進んでいますが、新たな商業者の育成について、商店街における取組と公益施設が完成した後の取組について教えてください。

○議長（菅原麻央議員） 産業交流部長。

○産業交流部長（簗木真一君） 新たな商業者の育成に関する取組ということで、まず私から、商店街における取組についてお答えします。商店街の実態といたしまして、この店主さんの高齢化による後継者の問題ということがございますので、新たな商業者を育成するということは大変重要であると認識しています。

そんなことで本市では、富士本町と吉原の商店街とその周辺にあります空き店舗を利活

用して新たにお店を出す方を支援する事業、これは、あなたも商店主事業というのですが、この事業に取り組んでおります。具体的には、新規の出店者の方に対しまして、家賃ですとか、あと、店舗の改装にかかる費用などを補助するということで、1店舗当たり最大で150万円の補助金を交付するといった事業に取り組んでおります。

それから開業してからも専門家が定期的に経営に関するアドバイスを行うといった支援も併せて行っていて、この事業、平成19年度から始めまして、現在も42店舗が営業を続けております。商店街における取組としては、このあなたも商店主事業を実施しております。

○議長（菅原麻央議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君） 私のほうからちょっと、公益施設における取組について御回答させていただきたいのですけれども、駅前の公益施設の1階のところにバス待ちを造る予定なんですけれども、その横にあまり大きなお店ではないんですけれども、チャレンジショップといったものを考えています。このチャレンジショップというのは、これからこういうお店を出したいという人に、1年から2年ぐらいの、そのぐらい短い期間で格安の価格で貸し出して、そこで商品のテスト販売をしながらノウハウを学んで、いずれはこの商店街に出店していただければというような、助走の場というものを設けていきたいと思っています。そういうところで新たな商業者が生まれてくればというふうに考えています。

○議長（菅原麻央議員） 富士見高校。

○富士見高校（加藤大喜議員） 私たち富士見高校もエキキタテラスなどの活動を通じて、この地域の魅力を広められるように頑張っていきます。

○富士見高校（井上浩一議員） 商店街のあなたも商店主事業だったり、チャレンジショップなど、様々な取組があることが分かりました。今後は私たち高校生を含めた幅広い世代の声を聞いたまちづくりを行ってほしいなと思っています。

以上で質問は終わります。

○議長（菅原麻央議員） 以上で、富士見高校からの質問を終わります。

ここで午後2時45分まで休憩いたします。

午後2時25分 休 憩

午後2時45分 再 開

○議長（佐野楓議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

私は、後半の議長を務めます富士市立高校の佐野です。よろしくお願いします。

日程第4 富士市立高校からの質問

○議長（佐野楓議員） 日程第4 富士市立高校からの質問を行います。

富士市立高校の発言を許します。富士市立高校。

[富士市立高校 登壇]

○富士市立高校（古澤彩羽議員） 全国で進行する少子化を食い止めるために、自治体で様々な対策が講じられています。しかし、実態の改善が見られないと考えています。本市においても人口減少が緩やかではありますが進んでいます。第六次富士市総合計画の重点課題・戦略にある「結婚・出産・子育て等の希望を実現できる社会づくり」に着目しました。そして、子育てを経験した親や知人の話を聞く中で、実際の困りごとと対策にギャップがあると感じました。

そこで、育児をする人の心配事の解消のために、以下のとおり質問いたします。

○富士市立高校（中村歩実議員） 1つ目、親が風邪などの体調不良時に、子供の育児が困難になる場合があります。そういったときに利用できる、24時間安心して子供を預けることができる場所は現在ありますか。

2つ目、出産前や出産後では女性が精神的に不安定になります。そこで、育児の仕方についてと、子育てにかかるお金についての相談を有効にできる場所がありますか。

3つ目、これらの取組を一覧で見られるように可視化するとよいと考えるのですが、いかがですか。

以上です。

○議長（佐野楓議員） 市長。

[市長 小長井義正君 登壇]

○市長（小長井義正君） 富士市立高校の御質問にお答えいたします。

初めに、いつなんどきでも対応できる保護施設についてのうち、親が風邪などの体調不良時に、24時間安心して子供を預けることができる場所はあるかについてであります。核家族化の進行に伴い、親族や近隣との関係が薄れていることにより、保護者の体調が悪い時でも子育ての応援をお願いする人がいない御家庭が増えております。

市では、市民の皆様が安心して子育てすることができるよう、17歳までの子供を様々な

形で預かるサービスを実施しております。ファミリー・サポート・センターでは、子供の預かりなどの支援を受けたい人と、支援を行いたい人がセンターに会員登録し、センター職員のマッチングにより、有料でサポートを受けることができる仕組みをつくっております。このサービスでは、安全な環境で預かるほか、習い事への送迎なども行っており、仕事や病気の時など、保護者の状況に合わせて、夜中でも一時的に利用することができます。

また、子育て短期支援事業では、保護者が病気や出産、仕事、冠婚葬祭、育児上のストレスなどのために、一時的に家庭で子供の養育ができない場合に、世帯の収入により利用料は変わりますが、泊まりや日帰りで子供をお預かりしております。このサービスでは、市内の児童養護施設や乳児院、里親の御家庭で子供を預かりますので、安心して利用していただきたいと考えております。

次に育児の仕方や子育てにかかるお金についての相談を有効にできる場所はあるかについてであります。市では、妊産婦、子育て家庭、子供からの相談や支援を総合的に行う窓口として、こども家庭センターを市役所に設置し、電話や来所、家庭訪問などで相談に応じております。センターでは、初めての子育てで不安がある、ミルクや離乳食の与え方が分からない、子供に落ち着きがなくて困っている、学校に行けないなど、様々な悩みのある方に保健師やケースワーカーなどが寄り添い、丁寧に対応しております。

また、お金や食べる物がなくて困っているという子育て家庭からの相談も受けており、緊急の場合には粉ミルクや紙おむつをお渡しするほか、食糧の支援やお金の相談ができるユニバーサル就労支援センターにつなぐなど、必要な支援が受けられる体制を整えております。

次に、取組を一覧で見られるよう可視化するとよいと考えるがいかがかについてありますが、子育ての情報につきましては、妊娠期から乳幼児期を中心に、市役所での手続や保育園・幼稚園等の紹介など、子供の成長に沿って、子育てに役立つ情報を多数掲載した子育てガイド、はぐくむF U J Iを毎年発行しております。また、子供の成長記録を管理することができる子育て応援アプリを提供しており、子育てガイドに掲載されている子育て支援情報に加え、地域のイベント情報をスマートフォン等で見るができます。

今後は、アプリの周知を行うとともに、子育て支援情報を探している皆様が、本市のウェブサイトで簡単に情報検索を行えるように、見やすい表示や機能について検討したいと考えております。富士市の未来を担う皆様が、将来、安心して子育てができるよう、子供

と子育て当事者に優しいまちづくりを推進してまいります。

○議長（佐野楓議員） 富士市立高校。

○富士市立高校（中村歩実議員） 御回答ありがとうございます。1番目の質問について、ファミリー・サポート・センターや子育て短期支援事業などがあると回答いただきましたが、どれも有料です。会員登録をしないと利用できないところを、無償化や誰でも利用できるようにすることは可能ですか。

○議長（佐野楓議員） こども未来課長。

○こども未来課長（本多直人君） 今、市長答弁にもありましたとおり、子育て家庭に関する様々な情報、それから支援を富士市ではやっています。その中では、一部有料のものもあります。そこについては例えば、家計状態が困窮している家庭などについては、一部のサービスを無料化する、もしくは減免するような、そんなサービスを行っております。皆様方に優しい子育て支援サービスの充実、こちらにつきましても皆様方の御意見を頂戴して、今後も検討していきたいと思っております。

○議長（佐野楓議員） 富士市立高校。

○富士市立高校（中村歩実議員） 御回答ありがとうございます。ぜひみんなが利用しやすい支援が増えることを願っています。

○富士市立高校（古澤彩羽議員） 3つ目の質問の回答で、子育ての情報を見られるはぐくむF U J Iを発行しているとおっしゃっていましたが、実際に見させていただいたところ、情報量が多く、自分の探している施設やサービスが探しづらいと思いました。そこで、市役所などで代わりに探してもらうというサービスがあったらよいと考えたのですが、それは実現可能でしょうか。

○議長（佐野楓議員） こども未来課長。

○こども未来課長（本多直人君） 子育て家庭の皆さんについては、本当に多種多様なお悩み、困り事を抱えているというふうに承知しています。何か困ったことがあったらというところですけども、市長答弁にもありましたとおり、少しコンシェルジュ的な役割として、こども家庭センターというものを市で設置しております。こんなこと困ったんだ、あんなことを少しお手伝いしてもらえないかな、そういうふうなことがあったら、何なりとそのこども家庭センターのほうに御連絡いただければ、そこでお答えすることはできますし、また、必要に応じて別のセクションにつなぐ、そんなこともできますので、ぜひこども家庭センターのほうに御連絡をいただきたいと思います。

○議長（佐野楓議員） 富士市立高校。

○富士市立高校（古澤彩羽議員） 御回答ありがとうございます。施設やサービスを探しやすくするためのサービスのために参考にしていただけたら嬉しいです。

○議長（佐野楓議員） 富士市立高校。

○富士市立高校（中村歩実議員） 3番目の質問について、はぐくむF U J Iを発行していて、アプリ連携をしていると回答いただきましたが、はぐくむF U J Iの内容を要約したものをフリーペーパーとしてスーパーなどに置くことは可能ですか。

○議長（佐野楓議員） こども未来課長。

○こども未来課長（本多直人君） 確かに今、議員がおっしゃるように、非常にこのボリュームが、情報量が多いです。このはぐくむF U J Iという冊子、本当に数十ページに及ぶような、非常に情報量が多いということは承知しております。市長答弁の中でも御提案させていただきましたけれども、また市のウェブサイトのほうも、ピンポイントで検索しやすくなるような、そんな検討をさせていただきたいと考えています。そして今、御提案がありましたフリーペーパー、こちらについてですが、ぎゅっとまとまったようなものがあるといいと御提案をいただきましたので、そこについては、少し検討させていただければと思います。貴重な御意見ありがとうございます。

○議長（佐野楓議員） 富士市立高校。

○富士市立高校（中村歩実議員） 御回答ありがとうございます。ぜひ前向きに検討していただきたいです。

○議長（佐野楓議員） 富士市立高校。

○富士市立高校（古澤彩羽議員） 2番目の質問の回答で、食料の支援やお金の相談ができるユニバーサル就労支援センターにつなぐなど、必要な支援が受けられる体制を整えているとおっしゃっていましたが、お金についての相談などは、現在どのくらい相談件数がありますか。

○議長（佐野楓議員） こども未来課長。

○こども未来課長（本多直人君） 先ほど御紹介をさせていただきましたこども家庭センターですけれども、赤ちゃんが生まれる前の妊婦さん、それから18歳までの子供のいる家庭の相談の状況についてですが、妊婦さんのうち、お金に困っている方は、令和5年度で1391人中171人、12.3%の方です。お子さんのいる御家庭では、令和5年度で相談件数が1206件、そのうち経済的に困りの御家庭につきましては、おおむね三、四割程度の方が

いらっしゃるということです。実際には本当に多種多様な課題を子育て世代の方は抱えておりますので、経済的な問題だけではなくて、子育てそのものにも困っているというようなことなど、家庭には本当に様々な問題が複合的に絡み合っているというような状況ですので、なかなか経済的に困っていることというか、これに困ってるということで、明確な区分けがちょっとできないという状況ではありますけれども、今お話をさせていただいたような状況にあることは御理解ください。

○議長（佐野楓議員） 富士市立高校。

○富士市立高校（古澤彩羽議員） 様々な質問に答えていただきありがとうございます。子育てをしやすく、暮らしやすい市になることを願っています。

以上で質問を終わります。

○議長（佐野楓議員） 以上で富士市立高校からの質問を終わります。

日程第5 富士高校からの質問

○議長（佐野楓議員） 日程第5 富士高校からの質問を行います。

富士高校からの発言を許します。富士高校。

[富士高校 登壇]

○富士高校（蒔田詩議員） 議長のお許しをいただいたので、さきに通告しております市内フードドライブについて質問いたします。

私たち富士高校では、新型コロナウイルスの流行をきっかけに、数年前から生徒が自由に利用できるゴミ箱を教室に設置することをやめ、教育機関である学校から排出されるゴミの減量を進めています。そのような環境の中で、ゴミとなる食料品を減らすことが、食べるものがなくて困っている方を助けることにもつながるフードドライブに興味を持ちました。

市民同士が助け合う関係を築くとともに、食品ロスや貧困問題を考える機会にもなるため、SDGsの観点でもフードドライブは重要です。

○富士高校（渡邊玲実議員） 富士市では、家庭で眠っている食料品の寄附を呼びかけるフードドライブを、NPO法人フードバンクふじのくにを介して毎年1月と8月の年2回実施しています。また、今年度より富士市はファミマフードドライブの協力パートナーにもなっています。ほかにも、すでに市内企業、社会福祉協議会など多くの団体が何年も前からフードバンクやフードドライブに力を入れています。

このように市内フードドライブ活動が盛んであり、SDGs 未来都市として誇れることであるにもかかわらず、実際に高校生である私たちも、この活動をほとんど知りませんでした。市民への浸透は十分でないと考えます。

○富士高校（野村明日香議員）　そこで現在、そして今後の富士市のフードドライブ事業の対応について伺います。

1 つ目、現在市内では、「広報ふじ」以外でフードドライブ活動はどのように市民に周知されているのか伺います。

2 つ目、市民にフードドライブ活動を浸透させ、今後活動を盛り上げていくための展開についてどのように考えているのか伺います。

以上、市内フードドライブ活動実施について、2 項目について質問いたします。

○議長（佐野楓議員）　市長。

〔市長 小長井義正君 登壇〕

○市長（小長井義正君）　富士高校の御質問にお答えいたします。

初めに、市内フードドライブについてのうち、「広報ふじ」以外でフードドライブはどのように周知されているかについてであります。品質に問題がないにもかかわらず、消費することができなかった食料を各家庭から無償で提供していただき、行政や支援団体等を通して生活に困窮する状況にある方々へ無償で届けるフードバンク活動は、本市だけでなく全国的に広がっております。

この活動を支えるために、一般家庭の食品を寄附していただくよう、特定の期間に行われるキャンペーンがフードドライブであり、本市では、認定NPO法人フードバンクふじのくにの呼び掛けに賛同し、平成29年度から参加しております。フードドライブの実施期間である毎年8月と1月は、市役所をはじめ市内各地区まちづくりセンターやふじさんエコトピアに専用の回収ボックスを設置し、多くの食料品を寄附していただいております。このフードドライブを市民に周知するために、「広報ふじ」以外にも、市のウェブサイトへの掲載、報道機関への報道依頼、各まちづくりセンターへのポスターの掲示等を行っております。

次に、市民にフードドライブ活動を浸透させ、今後活動を盛り上げていくための展開についてどのように考えているかについてであります。本市がフードドライブへ初めて参加した平成29年8月の実績は、重量として100キログラム程度でありましたが、本年8月の実績は430キログラムに増加し、当初の4倍以上になっております。参加当初の回収ボ

ックスは、市役所内の1か所のみに設置しておりましたが、平成31年1月から各地区まちづくりセンターを回収拠点としたことにより、利便性が向上したことに加え、先ほどお答えした周知活動により寄附量が増加したものと考えております。

また、本市は、本年度から新たな取組として、株式会社ファミリーマートが行うファミマフードドライブに協力しております。ファミマフードドライブは、ファミリーマートが市内のファミリーマート22店舗に回収ボックスを常設し、市のユニバーサル就労支援センターが、1か月に1回、食料品を回収するものであります。この取組は、市民が日頃立ち寄る身近な店舗に回収ボックスが常設されていることで、多くの方がフードバンクの活動を意識できることから、市民への周知としましても大変有効であると考えております。フードドライブの活動を浸透させ、活動を盛り上げていくためには、ファミリーマート以外にも常設の回収拠点を増やしていくことが有効であると考えておりますが、回収作業の増加や店舗の協力、回収方法の見通しなどの課題が多くあります。これらの課題はありますが、フードドライブの活動を本市に浸透させるため、可能な限り様々な回収拠点を増やしていけるよう検討するとともに、市公式LINEなどのSNSを活用し、さらに情報発信の強化にも努めてまいります。

○議長（佐野楓議員） 富士高校。

○富士高校（野村明日香議員） 先輩である市長より答弁いただきましたので、ここから確認させていただきます。事前に配付しております資料の1つ目、フードドライブ回収量についてを御覧ください。静岡県内でフードドライブ事業を行っているフードバンクふじのくにへ伺った結果、2024年8月の寄附量は、富士市616キログラム、静岡市761キログラム、沼津市206キログラムでした。それを公益財団法人国土地理協会の人口で割った結果、1人当たりの寄附量は、富士市2.49グラム、静岡市1.13グラム、沼津市1.10グラムでした。

現在、富士市の1人当たりの寄附量は、他市に比べて高い回収量の水準を維持しており、これは、先ほどの回答でおっしゃっていた、市のウェブサイトへの掲載、報道機関への依頼、まちづくりセンターへのポスターの掲示などの取組や、市民の善意の表れであり、素晴らしい結果だと思います。しかし、1年間の全世界の寄附量を見ると、アメリカは739万トン、日本は8000トンで、その差はなんと900倍以上にも及びます。人口は、アメリカは日本の2.5倍程度なので、単に人口の違いだけでは説明できません。

富士市が静岡県内で優位を取っていることは大変喜ばしいことではありますが、私た

ちはこの成果に満足せず、さらなる寄附活動の活性化を図りましょう。そして大国アメリカに対抗しましょう。そこで、まず私たちは、フードバンクの取組をさらに市民全体に周知させるべきだと思います。

2つ目の資料のグラフ、フードバンクに関するアンケートの結果を御覧ください。これは私たちが高校生を対象にアンケート調査を行った結果です。フードバンクという言葉の認知度は82%ですが、富士市内で行っているということを知っている人は8%、参加したことがある人は5%でした。これはフードバンクの活動がまだ十分に広報されておらず、多くの人々にとって遠い存在だということが分かります。そこで私たちは当局に、フードバンクの周知のために、富士市のごみのカレンダーにフードバンクに関する情報を記載するというのを要望したいです。このカレンダーは、多くの家庭で日常的に使用されるものであり、身近で活動を知る機会を増やすことになります。

○議長（佐野楓議員） 環境部長。

○環境部長（山本秀之君） 今、御提案いただきました、ごみのカレンダーについてなんですが、このカレンダーは毎年3月に全世帯に配付しております。今年の3月に配付する分につきましては、もうかなり制作のほうが進んでおりまして、来年度分にはちょっと間に合わないのですが、再来年度、令和8年度分のカレンダーへの掲載というのは検討してまいりたいと思います。ただ、紙媒体のためかなり情報が多くて、文字も大分小さくなってきてしまっていますので、どれぐらい掲載できるかというのはちょっと不透明ですが、令和8年度に向かって検討してまいります。

また一方で、紙のごみのカレンダーに代わって、さんあーというごみの分別アプリ、この普及を市では図っております。現時点で約3万2000件強のダウンロードをさせていただいておりまして、こちらへの掲載というのは、いわゆる電子媒体なので、情報を多く発信できるものですから、これらを使ってよりよいタイミングで、効果的な発信というものを来年度はしてみたいと思います。

もう一つ、食品ロスに関しては、インスタグラムもやっておりますので、これも合わせて情報の発信をしてまいりたいと考えています。

○議長（佐野楓議員） 富士高校。

○富士高校（渡邊玲実議員） ごみのカレンダーについて前向きに考えてくださるということで、ありがとうございます。ぜひよろしくお願いします。

次に、2つ目の答弁について確認いたします。先ほども指摘したように、富士市内では

フードバンク活動が活発であり、市としても様々なことを行っていることが分かりました。しかし、市長が先ほど課題があるとおっしゃっていました。その課題とは、仕分け、輸送の面だと推測されます。

フードバンクは、物質的支援にとどまらず、助け合いの輪を広げて、人と人とのつながりを深める役割も担っています。また、他者のために行う利他的な行動は、全ての人に必要な経験です。そこで、市民にとってフードバンクをもっと身近な存在とするために、常設のフードバンクではなく、防災訓練の場を活用して、フードバンクを実施するのはいかがでしょうか。地域で集まる防災訓練では、備蓄品の確認や入れ替えを行うため、食材に目を向けるいい機会であり、より多くの食べ物を集めることができると思います。

○議長（佐野楓議員） 福祉部長。

○福祉部長（田代鶴記君） ただいま、防災訓練などの地域の方が集まる際に、回収ボックスを設置してはどうかという御提案をいただきました。

各地域では、御承知だと思いますが、防災訓練に限らず、年間を通して地域ごとに、例えば文化祭であるとか、お祭りであるとか、様々なイベントが現在も開催されています。そのイベントにはお子様から御高齢の方まで、幅広い方が参加をしておられます。イベントの前に、例えば開催チラシにフードドライブをやりますよというような案内を先に入れておけば、そのことで多くの方に御協力をいただけたと思います。それから幅広い年代の方が集まりますので、その方々への周知も期待できるということで、今回、防災訓練を含めた地域のイベント等で回収ボックスを設置してはどうかという、大変よい御提案をいただいたなと考えております。

御提案の防災訓練に限りますと、防災訓練というのは予想される大規模災害への備えとして、訓練に集中して取り組んでいただくことが趣旨となります。そのため別の要素を入れてしまうと、参加者は少し混乱してしまうかなということで、難しさもあると思います。ただ、先ほどもお話したように、地域の各種イベントの際には対応が可能であると思っていますので、今後、検討させていただきまして、御提案の実現に向けて、可能な限り取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（佐野楓議員） 富士高校。

○富士高校（渡邊玲実議員） 地域のお祭りなどのイベントでのフードバンク実施に関して前向きに考えていただきありがとうございます。市民にとってこれはとてもよいことなので、ぜひ実施してほしいと思います。

ここで私たちができることとして、さらにもう一つ提案をします。私たちの高校で行われる富嶽祭でフードバンクのブースを設置すれば、寄附を呼びかけることができます。そのフードバンク設置を富士市に協力していただきたいです。先ほどの資料でもあったように、私たち高校生からの知名度は低いです。実際に私たちもこの活動を行うまで、あまりよく知りませんでした。文化祭での食べ物回収は、そんな学生のフードバンクへの認知度を高める第一歩となるはずです。

○議長（佐野楓議員） 福祉部長。

○福祉部長（田代鶴記君） 高校の文化祭等の場に回収ボックスを設置してはどうかという御提案だと思います。先ほど御提示いただいたアンケートのとおり、市内でフードドライブを実施していることに対する認知度がまだまだ低い状況にあるということで認識をしております。御提案のとおり、高校の文化祭の場に回収ボックスを設置しフードドライブを実施することで、高校生の皆さんを通して、御家庭に浸透していくことで、かなり活動の活性化、それから認知度の強化、こういったことが期待できると考えております。

このことから今回、大変心強い御提案をいただけたなと思っております。まずは富士高校に御協力をいただきまして、そこから市内各高校に活動の場を広げていけたら素晴らしいと考えております。御提案の内容につきましては、ぜひとも実現したいと考えておりますので、今後の御協力をぜひよろしくお願いいたします。

○議長（佐野楓議員） 富士高校。

○富士高校（蒔田詩議員） 前向きに考えていただき嬉しく思います。フードバンクを身近にするために、御協力よろしくお願いします。

ここで最後に、私たちが目指す将来の展望を申し上げます。将来的には、さらにフードバンクを活性化させて、地域のつながりをより深くするために、地域で完結するフードバンクを実施したいと考えています。まちづくりセンターなど、市民にとって身近な施設で、食べ物だけでなく、生活必需品の回収と共有も視野に入れています。誰とでも共有できて、誰でも受け取れる、完全に地域で独立したフードバンクです。ちょっと買いすぎたり、ちょっと自分に合わなかったりしたときに、気軽に共有したいと考えています。

これは誰かのためになるという活動であるだけでなく、地域連携を深め、より温かく住みやすいまちを目指す取組でもあります。この活動を実際に行うには、管理など様々な問題点があります。しかし、フードバンクの認知度を上げたり、ごみのカレンダーに記載したり、高校や防災訓練で実施したりすることによって、このようなフードバンクが実現

してほしいと考えています。ごみのカレンダーへの記載、防災訓練や、文化祭でのフードバンクの設置、よろしくお願いします。市長、私たち後輩からのお願いです。

以上で富士高校の発言を終わります。

○議長（佐野楓議員） 以上で、富士高校からの質問を終わります。

日程第6 富士東高校からの質問

○議長（佐野楓議員） 日程第6 富士東高校からの質問を行います。

富士東高校の発言を許します。富士東高校。

〔富士東高校 登壇〕

○富士東高校（中野純一郎議員） 議長のお許しをいただきましたので、我々は、さきに通告してある質問をさせていただきます。我々、富士東高校の高校生議会メンバーは、富士市の活気を肌で感じるために、公共交通機関のみを使用し、人が集まりやすいと考えられる市内の3つの商店街に行ってきました。そこで他市と比較し、人口の割には活気がないということを改めて感じました。しかしながら、岳南鉄道線を利用した、隣接する商店街の活気づくりができるのではないかと考えました。

鉄道路線での利益の大半が乗客数に依存するため、利用者数に着目しますと、コロナ禍終息後は利用者数が微増ではありますが、長期的な増加傾向は認められません。その要因として、岳南鉄道線の利便性も含めた魅力のなさ以外にも、我が市のシティプロモーションにも課題があるのではないかと考えられます。さらに、富士市にはほかにも商店街があり、吉原商店街のみがシティプロモーションを効果的に展開したとしても、期待どおりの効果が得られないと懸念されます。

そこで、我が市では、コンパクトシティ化を目指し、その上で岳南鉄道等の既存のインフラを活用したまちづくりをすべきであると考えます。

これらの点を踏まえて、以下の質問をします。

○富士東高校（山田悠翔議員） （1）現状の岳南鉄道線における利用者数、電車の本数の少なさなどを踏まえて、今後どのような支援を考えているのでしょうか。

○富士東高校（佐藤諒恭議員） （2）岳南鉄道線とシティプロモーションの関連性をどのように考えているのでしょうか。

○富士東高校（杉澤央崇議員） （3）富士市はコンパクトシティを目指しているのでしょうか。

以上の３点を質問いたします。

○議長（佐野楓議員） 市長。

[市長 小長井義正君 登壇]

○市長（小長井義正君） 富士東高校の御質問にお答えいたします。

初めに、岳南電車及びシティプロモーションを基軸とした街づくりについてのうち、現状の岳南鉄道線における利用者数、電車の本数の少なさを踏まえ、今後どのような支援を考えているかについてであります。岳南鉄道線は、おおむね30分に1本の運行頻度で、利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、平成30年度の86万6200人余から令和2年度は62万7800人余まで減少しましたが、令和3年度以降は緩やかな回復傾向にあり、岳南電車の財政計画では、令和9年度は80万人余になると見込んでおります。

本市では、岳南電車の存続に当たり、平成16年度から支援を行っており、令和5年度から令和9年度までの5年間におきましては、財政計画に基づき欠損額の91%を補助金として交付することとし、昨年度は7700万円余を交付し、本年度は8300万円を交付する見込みであります。また、補助金の交付だけでなく、岳南電車を通して都市の魅力や活力の向上を図ることを目的に、岳南電車庁内連携支援会議を組織し、観光やシティプロモーション、教育など幅広い分野において庁内横断的な支援を行っております。

次に、岳南鉄道線とシティプロモーションの関連性をどのように考えているかについてであります。岳南鉄道線は、地域の交通手段として大切な役割を果たすだけでなく、駅舎や車両の光景、車内から望む景観的魅力から、日本夜景遺産に認定されるとともに、観光誘客を目的とした夜景電車を代表とするイベント電車の運行を通じて、観光周遊の促進にも大きく寄与するなど、本市の観光資源としての価値を高めております。令和3年には、本吉原駅プラットホーム及び上屋が、国の登録有形文化財に登録され、歴史的、文化的な価値も加わりました。このように、本市の知名度向上に大きく貢献していただいていることから、令和4年度にはシティプロモーション活動の象徴的な役割を担うシティプロモーション大使に任命いたしました。

岳南電車は現在、様々なイベント・季節に応じた絵柄、キャラクターを用いたラッピングや、先頭部に高校生等がデザインしたヘッドマークを掲げた車両の運行を行っております。さらに、本年度は沿線の地域資源を紹介する岳南電車沿線マップをより見やすく、持ち運びしやすいサイズにリニューアルするなど、積極的な活動を展開しております。岳南電車には、今後も本市とともにシティプロモーションを推進する様々な取組を通じて、

まちの活力や魅力の向上に努めていただきたいと考えております。

次に、富士市はコンパクトシティを目指しているのかについてであります。平成26年3月に策定した第二次富士市都市計画マスタープランでは、人口減少時代においても暮らしの質を維持するため、鉄道駅など公共交通の結節点に、市民生活に必要な医療や商業、行政等の施設を集約する拠点を配置し、拠点間及び拠点と地域を公共交通ネットワークで結ぶ集約・連携型の都市づくりを進めることとしております。これが本市の目指すコンパクトシティの姿であり、今後も、魅力と活力ある市街地を形成し、安全で便利な移動環境を創出するため、富士駅北口再整備事業やA I オンデマンド交通の導入、産業用地の確保などに取り組み、集約・連携型の都市づくりの一層の推進を図ってまいります。

なお、本年3月に策定した第三次計画では、本市固有の地域資源である岳南鉄道線沿線を、鉄道沿線まちづくり交流軸に設定し、多様なまちづくりを促進することとしております。

○議長（佐野楓議員） 富士東高校。

○富士東高校（山田悠翔議員） 御回答ありがとうございます。2項目の岳南鉄道線とシティプロモーションの関係性については承知いたしました。様々な取組が行われていることが分かりましたので、今後もさらに進めていっていただきたいと思います。

1項目の質問につきましては、先ほど市長から答弁をいただいたとおり、乗降客数への新型コロナウイルスによる打撃、そこからの回復や、岳南電車財政計画第4クールの補助金などのデータもあると承知しております。

事前に配付してあります資料の1を御覧ください。これは岳南鉄道線の各駅の1日当たりの乗降客数です。このグラフを見ると、吉原駅と吉原本町駅の乗降客数が多く、都心と郊外を結ぶ路線であることが読み取れます。吉原駅の利用者が多くなっている要因は東海道線の乗換客です。このことから、岳南鉄道線の利用客は東海道線を使う人が多く、東海道線への依存が大きいことが分かります。しかし、鉄道は直線であればあるほど、最短最速になりますが、東海道線へのアクセス路線として見ると、岳南鉄道線はコの字型になっています。

資料の2を御覧ください。ピンクの円とそれより右側の赤い線、そこからつながる緑の線が現状の岳南鉄道線です。逆コの字型になっているのがお分かりかと思います。この路線を使うと、特に岳南原田駅から岳南江尾駅間は、オレンジの東海道線まで遠回りになり、その結果、沿線に住む人は移動の選択肢に岳南鉄道線は上がりません。これについて

はどうお考えでしょうか。

○議長（佐野楓議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君） 東海道線まで岳南鉄道だと遠回りになって選択肢に上がらないことについて、どう考えるかという御質問ですが、資料を見させていただきますと、議員御指摘のとおり、確かに吉原駅の利用客が多くなっておりまして、東海道線を使う人が多くなっていることがうかがえます。このため、私どもも選択肢として岳南鉄道線を利用させていただくために、富士市では過去に岳南鉄道線と東田子の浦駅を結ぶアクセスバスの試験走行を約2年弱の期間で、4回ぐらい社会実験として行った経緯があります。

この結果ですが、まず運賃を無料にした場合で走り出したのですけれども、そのときには1便当たり利用者は大体6人おりました。次に、有料100円とか200円とかそういう格安の料金で走らせたんですけれども、そのときは1便当たり1人台だという形で、無料での利用は多かったんですけれども、有料になりますと大幅に減少してしまいまして、厳しい収支状況となりました。このため試験走行は終了いたしまして、本格運行には至らなかった。そういう経緯があります。

しかしながら、無料の場合でも1日6人という一定の需要があるということから、仮に岳南電車の江尾駅、それから東田子の浦駅がつながれば、利用客が増えることは想定されますけれども、一方、収支の状況を見てみますと、課題があるのではないかというふうに考えております。御存じかもしれませんが、富士市は自動車への依存度が約4分の3、大体75%あります。まずは公共交通を選択肢の1つとして選んでもらえるような取組、ハード施策だけでなく、モビリティ・マネジメントというソフト施策と両面で公共交通利用の促進に努めていきたいというふうに考えております。

○議長（佐野楓議員） 富士東高校。

○富士東高校（山田悠翔議員） 御回答ありがとうございます。ぜひ、沿線に住む方々にも使ってもらえるような路線を目指してほしいと考えております。

○議長（佐野楓議員） 富士東高校。

○富士東高校（佐藤諒恭議員） 続きまして、3項目の質問は、さきの市長の答弁にもありましたとおり、本市では、第二次富士市都市計画マスタープランや富士市集約・連携型都市づくり推進戦略を基に、コンパクトシティを目指しているとの答弁をいただきました。我々は、本議会に向けて素案を作成している中で、この集約・連携型都市づくり推進戦略の存在に気づき、私たちの考えた公共交通網再編計画が一助になると考えました。よ

って、我々はさきの市長の回答により、ここにコンパクトシティを目指していることを確認し、公共交通網再編計画について質問させていただきます。

先に我々が提案したい公共交通網再編計画について御説明させていただきます。先ほども御覧になっていた資料の2を御覧ください。これは、市内4路線を1つの駅に乗り入れる公共交通網再編計画です。それぞれ、オレンジ色の線が東海道線、黄色の線が身延線、青色の線が東海道新幹線、赤色の線が岳南鉄道線の岳南江尾駅から吉原本町駅間と、吉原本町駅から4路線が乗り入れる駅までの区間、緑色の線が岳南鉄道線の吉原駅から吉原本町駅間で、線路を撤去し、その跡地を活用したBRT化した路線、茶色の線が市内を走る主なバス路線、黄緑色の円が新しく4路線が乗り入れる新駅のおおよその位置、ピンクの円が吉原本町駅と吉原中央駅を統合した乗換えを便利にする交通拠点を示した位置、そのほか2つの紫色の円が富士駅と吉原駅を示したものとなっています。

まず、下のピンクの円を御覧ください。東海道線、身延線、東海道新幹線が乗り入れる新駅に、岳南鉄道線を乗り入れさせます。また、集客力の高い市役所、中央病院、ロゼシアター等の周辺を通り、新駅まで線路をつなぐことで、岳南鉄道線の利用者が増加すると考えます。さらに、この案では1つの駅に4路線が集まることにより、乗換時間、移動時間の短縮、中心地へのアクセス強化を見込むことができます。

その際にできる新駅については、工場の老朽化が進んでいるため、その跡地を使って新駅を整備できるのではないかと思います、資料に示す黄緑色の周辺に設置したいと考えます。さらに、将来的なりニア中央新幹線の開通による東海道新幹線の修繕時に線路を移設することも考え、この案の現実性がより高まるのではないかと思います。この案についてどうお考えでしょうか。

○議長（佐野楓議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（鈴木潤一君） この案について、提案内容についてどう考えるかという御質問ですけれども、富士市ではこれまで合併等の経緯によりまして、これらの拠点を公共交通で結ぶ、こういう取組を進めてまいりました。とりわけ新富士駅と富士駅、こちらの接続については本市の都市づくりにおいても重要な課題というふうに認識しておりまして、これまでも接続方法について、いろんな検討をしてまいりました。

具体的には、身延線を延伸して新富士駅までつなぐですとか、あるいは富士駅東側に1.5キロメートル、御提案の中の緑色の場所にはほぼ近いところなんですけれども、ここから動く歩道で新富士駅までつなぐとか、そのような検討をしてまいりましたが、こちらに

については膨大な事業費ですとかＪＲとの協議に多大な時間を要するというので、実際に取組には至っていないのが現状です。御提案の、新幹線の線路の位置を動かして在来線と接続し、身延線や岳南鉄道線を延伸して新駅を設置する。全ての線路を結節させるという、非常にドラスティックな、大胆な提言だと考えております。本当にこれが実現すれば、富士市のポテンシャルは本当に計り知れないものになると考えております。

しかしながら、東海道線の線形を変えるということは、先ほどお話ししましたＪＲとの協議ですとか、あるいは、そこにある住宅ですとか工場などの事業所に、移転ですとか相当な負担、協力などを求めないと、なかなか実現しないものですから、非常にハードルが高いというふうに考えています。

ただ、将来を担う皆さんが富士市の都市交通のことを本当に真剣に考えていただいて、このような提案をいただいたということは、本当にありがたいと感謝しています。提案の実現にハードルが高いことはありますが、このような考え方、本当にシームレスにつないで、ストレスのない乗り継ぎができれば、私どもも、こういう考え方には本当に共感しておりますので、今後そういう考え方を念頭に置きまして、いろんな鉄道駅の連携強化に取り組んでいきたい。またその手法としましては、鉄道に固執することなく——今度、自動運転バス、こちらのほうも導入について今検討を行っておりまして、これにつきましては年明けの１月１５日から２１日までの間に新富士駅・富士駅間とか富士見台地区、こちらで実証運転を実施いたしますので、ぜひ御予約、御乗車いただければと思います。

○議長（佐野楓議員）　富士東高校。

○富士東高校（杉澤央崇議員）　御答弁ありがとうございます。もしこの案が実現すれば、４路線の乗り入れる新駅が県内最大の駅となり、富士市の知名度、競争力の上昇、企業が進出したいと思えるような魅力あるまちに、交通拠点という役割以外にも、経済力の高いまちになると考えます。富士市は工業地域であり、工場をほかの地域から移転して、富士市に設置したいという企業が増え、市の税收増加、雇用の創出、さらには東京、大阪、名古屋等の大都市へ新幹線を使い、１本で行けるという立地のよさを武器にすることが出来ます。

公共交通機関をまとめることで、市内だけではなく、市外にも効果を及ぼし、県東部地域の活性化につながり、ＪＲ線、岳南鉄道線、バスともに利用者が増加すると考えます。我が国では、少子高齢化が進んでおり、富士市も例外ではありません。交通が便利になることで、人口減少、他市への人口流出を抑制し、高齢の方々でも自動車に頼らずに済

むことができ、公共交通機関が市民の足として機能します。これは大きな強みであり、富士という地名をより多くの人に知ってもらうきっかけとなります。また、首都圏のベッドタウンとして、今までよりも注目されることになり、移住してくる人によって、さらに人口減少を抑制することができると考えられます。

交通の便をよりよくするためには、岳南鉄道線とＪＲ線を直通する電車を走らせることで、岳南鉄道線沿線から東海道線や、身延線を介して、静岡や沼津、富士宮方面、その逆も含めて実現すれば、より多くの利用者を見込むこともでき、新たな観光業を起こすことができると思います。

富士市には世界遺産富士山があり、これをアピールすることで、観光客にとって魅力ある街となり、富士市に行きたいと思う人が増え、新たな富士市の第一歩を踏み出せると思います。

以上で富士東高校からの質問を終了いたします。

○議長（佐野楓議員） 以上で、富士東高校からの質問を終わります。

以上で、本日の会議に付議された事件は、全て終了いたしました。

○議長（佐野楓議員） これにて本日の会議を閉じ、令和６年度 いただきへの、はじまり 富士市高校生議会を閉会いたします。

午後３時４４分 閉 会